

2017/02/25(土)07:54

科目名	地域学特論			授業コード	U003015a			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	2	1	後期				
担当者名	安溪 遊地							
授業概要								
<p>地球人の驚くべき多様性をつかもうとする「人類学」、自分の暮らす足下に埋もれている宝を掘り進む「地域学」、そしてその中で自分の果たすべき役割を探る「自分子学」。この授業では、とても欲張りに、この3つを並行して勉強してみたいと思います。最初の8回は、文科省COC事業の「やまぐち学マイスターコース」のみなさんとともに学びます。</p> <p>大切な考え方として、3つの反省を忘れないで進めたいと思います。それは、以下の3つです。</p> <p>1. わたしは、すべてのいのちたちという兄弟姉妹とともに、この奇跡の星に属している。だから人間が一番偉いなど思いあがらない。</p> <p>2. 自分の文化や「くに」が最高だと思ったら、誰もがそのような気持ちをもつはずだと気付いて立ち止まろう。いわゆる先進国の経済を支えている、土地所有や、利息や、時間給などはすべて人間のつくった勝手なファンタジーにすぎない。</p> <p>3. 研究する者が研究・調査される者よりも尊重・優先されるべきだと感じたら、そのとき、りっぱな「バカセ」の候補者になっていることに気付こう。</p> <p>この3つは、地球のどこでも、いつの時代も大切な反省のようですが、それぞれの反省は、山口県ゆかりの3人の大先輩に教えられたものです。1. は油谷出身で屋久島で没した詩人・山尾三省さん、2. は柳井出身で人間の経済を研究した玉野井芳郎さん、3. は周防大島出身の百姓といつも名乗った民俗学の宮本常一さんです。忘れられた日本人たちの記憶をよびさまし、地域から元気をもらいつつ、地域を元気にしていく智恵をわかちあいましょ。</p>								
到達目標				成績評価の方法と基準				
大陸の東の端の列島が、歴史の中で揺れ動くとき、いつも今日「山口県」と呼ばれるこの地域には大きなエネルギーと智慧が集まりました。そして、人々は地域の境を越え、海を越えてうごきまわりました。ともすれば現在の県境の中に押し込めて考えがちな、「やまぐち」。それはもちろん地球の上の偉大なアジアの小さな民の住まう場所です。大河ドラマなどが都合良く創り上げた「やまぐち」像ではなく、みずからの足下の暮らしとつながる何かを再発見し、地域を再定義してみようという意欲をもちましょ。さまざまな記録と無名の民衆の記憶を統合して、あたらしい地域学としての「新やまぐち学」の地平をともに切り開きましょ。				あらかじめテキストを配っておき、それに基づいて討論するという形の授業を随時おこなうので、その中で討論することを学ぶ。コミュニケーションボードでの論評などの平常点と最終回での5分間プレゼンテーション(テーマ、プレゼン方法は自由)によって成績評価する。				
学習目標		評価項目と割合						
具体的学習目標	配点比率	授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) やまぐちの自然と文化の多様性を東アジアの中に位置づけて理解する	30	20	0	10	0	0	0	0
(2) 上山満之進・宮本常一・玉野井芳郎・山尾三省・國分直一といった山口県ゆかりの知の巨人たちの足跡を知る。	20	10	0	10	0	0	0	0
(3) 人と自然の関係をみなおして自らの暮らしを変革するアイデアを学ぶ	30	0	0	10	20	0	0	0
(4) 学んだことを、だれにもわかりやすく伝える力を身につける	20	0	0	0	20	0	0	0
授業の項目と内容				自主学習課題				
自分子学(1) 毛利家の武道・種田山頭火・蒙古からの引揚——母の記憶								
大正時代のある女の波瀾万丈の物語。戦争のなか、竹槍訓練								

に参加せず、「非国民」と呼ばれた過去を忘れないために、息子に軍歌を教えるという不思議。	このタイトルでネット公開されているので探してみよう。
地域学(1)地域に巻き込まれる方法／1枚の絵をめぐる、防府の市民と台湾をおとずれて交流する	
防府図書館にかかっていた一枚の油絵。それが台湾の画家の描いたものだとわかったところから、地域の物語がうごきはじめ、大学と地域住民で台湾を訪れ、台湾からも防府にやってくるという交流の輪がひろがった。	http://ankei.jp で上山満之進 や 陳澄波で検索してみましょう。
人類学(1)人間の経済の根っこを考える——玉野井芳郎のエコノミーとエントロピー論	
資本主義経済は、土地と労働量の商品化というフィクションにもとづいて成立していることを喝破したのは宇野弘蔵だが、玉野井芳郎は、エントロピー概念をもちこみ、ヨーロッパ起源のグローバル経済の専横を乗り越える方法を模索した。	『東アジアに輝く』の玉野井の項を読んでみましょう。
自分子学(2)地域で叱られる／宇部小野田で炭坑と観光を考える	
初めてのフィールドワークで安溪は「バカセなら毎年何十人も来るぞ!」と言われてしまう。その後も叱られることが多い。渋沢敬三がみた西表島の炭坑と、宇部小野田の炭坑や観光ルートになっている三池などを対比しながら、もっとも弱い立場の人たちに共感するという基本的な姿勢を共有したい。	宮本常一・安溪遊地、2008『調査されるという迷惑——フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版(周防大島、1972年の宮本先生の「調査地被害」を第一章に安溪遊地が加筆したもの) 宮本常一、2005「宇部・小野田炭坑古老聞書」『宮本常一——KAWADE道の手帖』河出書房新社
地域学(2) 鎌倉時代・重源上人の大仏再建と昭和の有馬実成師のNGO活動	
山口市徳地に伝わる鎌倉時代の仏教僧・重源(ちょうげん)という人物の伝承。	山口市徳地の重源の郷・文化伝承館を訪ねてみよう。
人類学(2) 九学会連合を育てた偉大なるパトロン・渋沢敬三——学問の壁を越える	
民俗学を志し、それを遙かにこえて生涯に16万キロを歩いた宮本常一の師匠の渋沢敬三は、あらゆる学問分野の人々が大きな支援をうけたパトロンであり、自身も研究者であった。	渋沢敬三の文章は、ネットで公開されているので読んでみましょう。
自分子学(3)幕末維新の長州真宗僧・香川葆晃と第2代朝鮮総督・曾根荒助	
明治始めの廃仏毀釈の嵐から仏教を守った4人の真宗僧が山口にいた。そのうちもっとも知られていない葆晃の足跡をひ孫である安溪遊地が追う、現在進行形の謎解きの報告。	『東アジアに輝く』で4人の真宗僧の事績をよんでみましょう。
地域学(3)山口県にある日本一——周防灘の奇跡の海・上関の生物多様性を例に	
山口県の面する瀬戸内海に計画されている中国電力上関原子力発電所。その予定地は生物多様性の宝庫だった。どうすればこの人と自然のすばらしい関係を次の世代に渡せるか。日本生態学会での取り組みを紹介する。	http://ankei.jp/yuji/?n=2028 など、「上関」で検索してみましょう。
人類学(3)熱帯アフリカの森と大河の暮らし——人々の智恵とお金にたよらない経済のしくみ	
アフリカの大河のほとりの物々交換の市場。なぜお金が普及したいまなぜ物々交換? その疑問が安溪遊地の理学博士論文になった。	コンゴ川上流部に物々交換市をたずねて(英語) http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/68325/1/ASM_S_4_89.pdf を参照。
自分子学(4) 土着の研究から着土の実践へ——山口広葉樹灰研究会と花咲か爺の夢	
アフリカの物々交換の智恵を足下のやまぐちでできないか。そうした挑戦の日々の紹介。	ルーツを尋ねる旅の記録 http://ankei.jp/yuji/?n=1668
地域学(4) 与那国島に残る500年前の記憶と伝承——濟州島民との心の交流	
台湾にほど近い沖縄と与那国島に残る最後の伝承者からの聞き取りを紹介。文字に頼らない民衆の記憶力が500年の時を距てて蘇る。	
人類学(4)スペイン・ナバラ州の人たちの挑戦——再生可能エネルギーと農家民宿の旅から	
フランシスコ・サビエルの縁でつながった山口県とスペイン・ナバラ州。その果敢な挑戦を紹介。	

<p>自分子(5)あるく・みる・きく・つくる——やまぐちの先人たちの実践を受け継ぐために</p>	
<p>地域の伝承を聞くことは、資料を掘りおこすことは、未来へ向けた責任を背負うことでもあります。先人の足跡をどうやって受け継いで行くべきか、ともに語りましょう。</p>	<p>安溪遊地・安溪貴子『島からのことづて——聞き書き・琉球弧の旅』には、島々で託された島びとたちの言葉があります。 http://ankei.jp/yuji/?n=126</p>
<p>地域学(5) 文化力と自然力——やまぐち人が東アジアで輝くために</p>	
<p>やまぐちを現在の山口県の境界の中にとじこめて考えるのはやめにしたい。東アジア全体の中に位置づけながら、そのアイデンティティを再定義することが今必要ではないでしょうか。</p>	<p>英語が苦手でない人は、電子書籍 Yamaguchi Studies: your door to understanding the culture of Japan. をインターネットで探して読んでみよう。</p>
<p>まとめ)わたし・地域・地球——受講生による5分間の発表と5分程度の質疑応答</p>	
<p>あなたにとっての「自分子・地域学・人類学」を、何か具体的なテーマを選んで、自由な形で5分程度でプレゼンしてください。紙芝居でも、うたってもおどってもいいのです。そのあと、そのプレゼンを受けて、全員でやりとりをします。発表のメッセージがはっきり伝われば合格です。会場とのやりとりの内容が豊かなものになれば、よい成績になるでしょう。</p>	<p>事前にプレゼンのテーマを提出して下さることが望ましいです。</p>
<p>テキスト、参考書、教材</p>	<p>教科書 宮本常一・安溪遊地、2008『調査されるという迷惑——フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版(1080円のところ、1000円。授業中に販売します)。 参考書 山口県立大学COCブックレット「新やまぐち学」シリーズ第6巻『東アジアに輝く』第7巻『上山満之進と陳澄波』 電子書籍 Yamaguchi Studies: your door to understanding the culture of Japan.</p>
<p>受講生へのメッセージ</p>	<p>教えるとは希望を語ること。学ぶとは誠実を胸に刻むこと(フランスの詩人ルイ・アラゴンの言葉)。いま、やまぐちでどんな希望がつかれるか、それを問いかけながら進めて行きましょう。今年は地域公開授業には指定されていませんので、9回目から15回目までは、参加されても、地域の方からはお金をいただかない! のだと思います。</p>
<p>履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)</p>	<p>平常点を重視します。授業中に質問やコメントをしてください。最終プレゼンをもってレポートにかえます。評価は、気づき(自分や自分の社会のこととして実感をもって受け取る力)と学び(具体的知識とその正確さ)と表現力(わかりやすく上手に伝える能力)で評価。地元の大学院って案外面白そう、と思う人を増やしたい。地域の方への「勝手に公開」授業でもありますので、ともに学びましょう。</p>